

### 33. PMD病棟の生活介助における ボディメカニクスについて

国立療養所刀根山病院

大久保 一枝 小谷 和子  
中元 淑子 森永 しのぶ

今回は、筋ジス病棟での介助作業の中で疲労度が大きく、問題の多い入浴介助のボディメカニクスについて検討しましたので、その結果を8ミリ映画によって報告します。

介助例	問題点	望ましい方法	
脱衣介助(車椅子上にて)	患者の上半身が不安定になりやすい。	○患者のサイドに立ち密着した状態で行う。 ○ズボンを下げる時は必ず2人で行う。	
移動 (車椅子→浴槽、洗い台) (洗い台→浴槽)	大きい子供の場合、裸であるしつかみどころがない。 臥位のまま抱きかかえ移動している。 工夫として→	○介助者は患者の胸の所でしっかりと腕を組んでかかえる。 ○重い子供は必ず2人で行う。 ○1度患者を坐位にし自分の方へ密着させ双者が安定してから移動する。 ○介助者の負担を軽減する為に昇降機を設置している。	患者をすべり落す心配がなく患者と密着して安定した状態で移動出来る腰部への急激な伸展、捻転が防げる。
(洗い台→車椅子)	中腰のままサッと抱え上げる事が多い。 工夫として→	○膝の屈伸を利用し患者と介助者が密着した状態で行う。 ○平行移動出来る様に洗い台、浴槽、車椅子の高さを一定にしてある。	腰部の急激な伸展、捻転を防ぐ事が出来る。
清拭 (低い台坐位) (低い台臥位) (高い台臥位)	殿部を洗う時、中腰捻転過重になる。 中腰の作業が長時間続く。 台が高い為、抱え作業がある。	○必ず2人介助とし1人が患者を横にしささえ、もう1人が洗う様にする。 ○片膝を台の上にあげて患者に接近して行う。 ○背部を洗う時は体位変換を利用し行う。 ○この台は、体重の軽い子供に利用する。	腰部の捻転過重が防がれる。 膝に重心が分散され腰への負担が軽減する。 洗う時腰を屈曲せずに無理な力を使わずに行える。
洗髪 (浴槽内) (低い台臥位) (低い台坐位)	工夫として→ 中腰介助で湯くみ動作も多い。 坐高の高い患者の時不安定で介助者は上	○立位姿勢のままで介助出来る様に床が低く掘り下げた状態である。 ○片膝をあげて患者に接近して行う。 ○湯くみ動作の省略のためシャワーを利用する。 ○台の上にあがり患者の後ろに立ち密着した状態で行う。	腰部を屈曲せずに洗えるので負担が少ない。 湯くみ動作時の腰部への伸展捻転が 無理な力を入れずに行えるし患者も安定して

着衣 (着衣台) (着衣場)	肢挙上で力が入らない。 長時間の中腰介助である。	○片膝を台の上にあげて患者に接近し体位変換を利用し行う。 ○両膝をついて患者に密着して行う。	いる。 腰部への負担が軽減される。 ○身体を自由に動かす事が出来るので腰への負担が少ない。
----------------------	-----------------------------	---	---

入浴介助は、衣類の着脱、洗髪、清拭、移動と介助内容も多く、患者が裸であるので、特に注意が必要な上に床がすべりやすく、高温多湿で介助者の疲労度が大きい。今後の問題として、ボディメカニクスを考えた介助方法を工夫すると共に、より介助者の負担を軽減するためには設備、構造を合わせて検討しなくてはならないと思います。

## 34. 自助具の工夫

国立療養所刀根山病院

大久保 一枝      谷 昭子  
中 村 三枝子      栗 林 真理子  
松 尾 美智子      西 本 設子

前年度に引き続き、今回は排尿時の自助具を中心に工夫した。

### 1. ズボンとパンツの工夫

ズボンとパンツの前開きを前立てより下部を更に10cm程開き、ファスナーにひもをつけ手指4本の力で上下しやすくした。これにより上肢筋力を使ってファスナーの上げ下げが容易になった。

### 2. 陰茎押え棒作成

肘関節拘縮等のために陰部まで手の届かない患者のために考案したものである。形は図1のようになっている。材質は角度が自由に調節できるように針金を用いた。最初針金を包帯で巻いたが汚染しやすい欠点があるので、O<sub>2</sub> カテーテルや輸液用のビニールチューブに針金を通したところ洗濯が可能であり、感触も好評となり十分自助具の役割を果たしている。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

今回は、筋ジス病棟での介助作業の中で疲労度が大きく、問題の多い入浴介助のボディメカニクスについて検討しましたので、その結果を8ミリ映画によって報告します。